

わかみやだよい

わかちあい、かんがえ みつけて、やってみよう

11月の教育活動

今月は、本校でも子どもたちの学びが大きく深まる重要な月となります。様々な教育活動が予定されており、ご家庭や地域と連携した活動を通じて、子どもたちの「生きる力」を育んでまいります。

【学びを深める校外学習と地域連携活動】

各学年で地域や社会の中で実際に学ぶ校外学習や地域連携活動も予定しています。これらの活動は、実体験を通じて、問題解決能力を伸ばす貴重な機会となっています。

(保護者の皆様へのお願い)

- ・事前準備(持ち物や健康管理)のご協力をお願いします。
- ・ご家庭でも、活動の目的について話し合い、子どもたちの意欲を高めるよう励ましの言葉をかけていただければ幸いです。

【輝く感性の祭典! 音楽会のお知らせ】

学校行事である音楽会を、11月7日(金)に実施いたします。子どもたちは、この日のために合唱や合奏の練習を重ねています。互いの音に耳を傾け、表現する活動の中で、音楽の楽しさを感じ、豊かな感性が育ってほしいと思っております。ご多用とは存じますが、子どもたちの練習の成果と、一生懸命な姿に温かい拍手を送ってくださいますようお願い申しあげます。

なお、会場への入場・観覧につきましては、皆様が気持ちよく鑑賞できますよう、ご案内させていただいた内容を必ずご確認いただき、ご協力をお願いいたします。

「あいこじょんけん」で共感・協同づくり

青少年育成連絡協議会全市大会講演会より

NPO法人 生涯学習サポート兵庫の山崎清治理事長による講演「子どものたちの『今』を生き抜く力～地域の絆は、地域の力～」よりお届けします。

I. 無人島学校の取り組み

山崎氏は、子どもたちが「自分で考えて決める力」「自分の役割を見つける力」「人と対話する力」「命について考える力」を育むことを目的に、夏休みの一週間(7泊8日)、家島諸島松島で無人島学校を20年間開催されています。困難に打ち勝つためには、「自分の言葉で自分の理由を語れる」ことが重要であるとし、保護者に言わされたからではなく、自己決定に基づいた参加であることを条件としています。

2. 扱 競争から共感へ:協同体験の重要性

今の子どもたちには、「自己肯定感が低い」「競争が嫌い」といった特徴が見られます。子どもたちの心の安全基地(心理的安全性)を築き、社会性を育むには、勝ち負けを意識する競争ではなく、相手のことを考え行動する機会が必要です。

【あいこじょんけんゲーム】(おうちでもぜひ)

講演では、「早く5回あいこになる」ことを目標にした、じょんけんゲームを行いました。このゲームは、勝ち負けの「競争」から、相手と合わせる「共感・協同」への意識転換を促します。

5回のあいこはなかなか難しかったですが会場の参加者の方々もとても楽しく、コミュニケーションをとることができました。

3.「体験」を「経験」に変える魔法

子どもたちは日々様々なことに挑戦しますが、ただ体験しただけでは成長につながりません。大切なのは、その体験を「経験」として身につけることです。

体験を経験に変える「経験学習モデル」

経験学習のサイクル	大人の関わり方のヒント
経験 → 内省 (思い出す)	「どうだった?」「一番大変だったことは?」と問いかける。
内省 → 概念化 (教訓にする)	「そこから、次に生かせることは何か?」と一緒に考える。
概念化 → 実践 (次の行動へ)	その教訓を基に、次の行動を応援する。

また、子どもが話すときは、「聞く」のではなく、最後まで注意深く「聴く」姿勢を大切にします。

4. 自己決定を尊重し、自立の土台を築く

講演では、「自立」とは「自己決定に基づき、主体的に行動すること」とお話をありました。

- 幼少期から、小さなことから自分で決める機会を!
「おやつをどれにするか」「週末の予定」など、日常の小さなことを自分で決めることで、「自分の言葉で自分の理由を語れる力」が育ち、困難に立ち向かう土台になります。
- 「役割体験」で自己有用感を
お手伝いや地域活動など、「ありがとう」と言ってもらえる体験は、「自分の役に立つことの喜び(自己有用感)」につながります。子どもに意識的に役割を与えてみてはいかがでしょうか。

5. 安心できる環境=「心の安全基地」を

一緒に笑い、感じる共感体験を重ねることが、心を開き、「友達とは何か?」といった人間関係の概念を育む土台となります。

※心理的安全性とは?

誰もが不安や恐れを感じることなく、自分の意見を言えたり、行動できたりする状態のこと。

(大人のできること)

まずは、子どもたちと共感体験(一緒に笑う、感じる)を重ね、「ここでは失敗しても大丈夫」という心の安全基地を作る。そして、相手の言ったことを要約して返す「繰り返しの技術」は、子どもに安心感と気づきを与えます。

6. 失敗は成長のチャンス!

子どもたち(特にZ世代・コロナ世代)は、失敗を恐れる傾向があります。

- 大人の失敗談を聞かせよう
「あの時は大変だったけど、今は笑える」といった親の失敗体験を、楽しそうに話すことで、失敗から得られる教訓や、立ち直る姿勢を伝えることができます。
- 「リフレーミング」で前向きに
子どもの短所を、視点を変えて長所として捉え直す「リフレーミング」を活用しましょう。
(例)「飽きっぽい」→「切り替えが早い」

7. 育むべき5つの「不」の体験

子どもたちが生き抜く力を育むために、あえて経験させるべき5つの「不」の体験についてもお話をありました。

「不便、不安、不足、不満、不思議」

参観日へのご参加、ありがとうございました

先日の参観日には、ご多忙の中、大変多くの保護者の方々にご来校いただきましたこと、心より感謝申しあげます。

今回の参観授業では、全ての学年で「人権」をテーマとした授業を実施いたしました。違い、多様性を認め合うことの大切さ、自他を尊重するための行動等について学びを深めました。保護者の皆様の温かい眼差しは、子どもたちの学びを支えてくれたことと思います。

子どもたちは、学校とご家庭が連携してこそ大きく伸びるもので、今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。